

臨海部100年の歴史

遡ること100年前「京浜工業地帯の生みの親」と呼ばれた浅野総一郎は、実業家・渋沢栄一らの支援を受け、港の整備や、川崎・横浜にまたがる臨海部の埋め立ての整備を始めました。

1900年代から川崎の大規模な土地を求めて鉄鋼や機械などの工場が次々と立地し、その後、石油パイプラインなどの整備によりコンビナートが形成され、さらに発電所も建設されるなど、日本の高度経済成長をけん引する重要な役割を担うエリアとなりました。

1960年代の高度経済成長期には深刻な公害が発生しましたが、市民・企業・行政が一体となって公害問題に取り組んだ結果、現在ではきれいな空気や川等を取り戻し、産業と環境が調和したエリアとして成長を遂げました。

現在では新たな医療・健康・環境における世界最高水準の研究開発を行う拠点も形成され、従来から行われてきた産業と最先端の研究が混ざり合い新たな価値を生み出すエリアとなり、多くの方が臨海部で夢に向かって働いています。

浅野総一郎
でありました



臨海部ビジョン



川崎臨海部が今後も発展し続け、市民サービスや雇用を支えるだけでなく、産業拠点として世界の模範となるような地域をめざして、2018年3月、企業をはじめとする様々な関係者のみなさんと30年後を見据えた「臨海部ビジョン」を策定しました。



30年後の目指す将来像の実現に向け、取組を進めていきます。



臨海部国際戦略本部

電話：044-200-2945

メール：59jigyo@city.kawasaki.jp

2019年7月発行



みんなに
自慢しちゃ
おう!!

飛行機のビジネス
クラスのシートも
川崎臨海部で
作ってるんだよ!

スカイツリーの
鉄って川崎臨海部で
作ってるん
だって~!!



かわさき リンクイブ MAP

川崎臨海部は優れた技術で日本の産業を支え続け、さらに最先端の研究開発が行われるなど、新しい価値を生み出すエリアです。

